

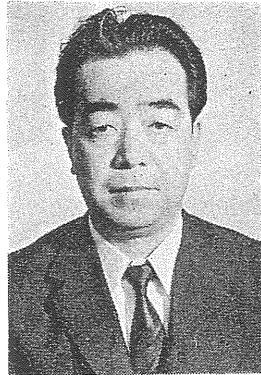
・蒙古・シベリア東部・カムチャッカ・旧樺太などに分布し 北海道には氷期の頃 大陸から陸橋を渡って住みついたもので いわば氷河時代のレリックともいべき小動物である。

さて ナキウサギの棲息地を通り 扇ヶ原展望台で雄大な十勝平野の眺望を楽しんだあと 帯広への約 60kmの道を急ぐとしよう。〔筆者らは帯広畜産大学(近堂 近藤) 帯広柏葉高校(木村)および帯広稲田小学校(田中)〕

参考文献

十勝団体研究会(1968)：十勝の自然を探る(札幌)
 十勝団体研究会(1968)：十勝平野の第四系(第2報)一とくに地形面と層序について—第四紀研究 vol. 7 no. 1.
 十勝団体研究会(1969)：十勝平野の第四系一とくに寒冷気候についての諸問題 並びに十勝団研の足どりと今後の課題について 第4紀 no. 14

木村方一ほか8名(1970)：十勝平野の内陸に分布する古砂丘について(第I報) 第四紀研究 vol. 9 no. 2.
 山口昇一(1970)：豊鎮丘陵北部地域の地質層序について 地質調査所調査研究報告会 no. 21.
 三谷勝利(1964)：北海道主部における鮮新世の層序と造盆地運動について 道地下資源調査所報告 no. 32.
 長尾拾一ほか10名(1960)：十勝平野周辺地域天然ガス調査報告 道地下資源調査資料 no. 61.
 福富孝治(1955)：北海道温泉調査報告(I) 糠平温泉調査報告 北海道衛生部
 福富孝治・藤木忠美・須川 明(1956)：北海道温泉調査報告(Ⅲ) 十勝川温泉の地球物理班調査報告 同上
 辻 秀子(1969)：土上幌遺跡—第1次報告—帯広畜産大学学術報告 第II部 vol. 3 no. 4.
 加藤晋平(1970)：北アジアにおけるルバロフ・ムスチェ技法の展開 考古学ジャーナル no. 51.
 鈴木順雄(1967)：北海道の新第三紀後期植物群 佐々保雄教授還暦記念論文集 291—302.



木村 亨 技官

木村 亨 技官

科学技術庁長官賞 受賞す

地質調査所北海道支所技術課 木村亨技官は 去る4月12日 第12回創意工夫功労者表彰を受け 科学技術庁長官賞を受賞した。そのテーマは次のとおりである。

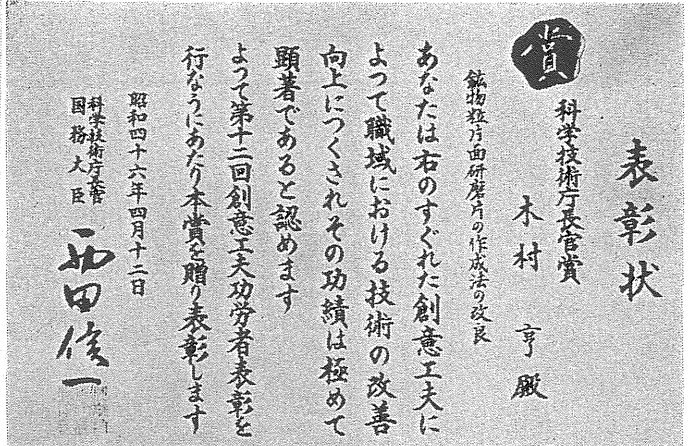
鉱物中の固体包有物を化学分析 するための研磨片の作成

鉱物中の固体包有物の化学分析をおこなうための一手段として その固体包有物(10μ~50μ)が研磨片の表面に現われるように 検鏡測定を繰返しながら作成し それをX線マイクロアナライザーで分析する方法と 鉱物粒(カンラン石 輝石 石英など)の両面研磨片(厚さ0.1~0.5)および岩片の両面研磨片の作成で 鏡下での一般的観察や この試料をそのまま鏡下での1,000°C以上の高温加熱実験に供し得る試料が作成されたことから 鉱物の生成条件 成因を究明するための実験が簡便に行なえるようになった。

以上のような鉱物粒研磨片の作成が 包有物研究の一分野における顕著な進歩として高く評価されている。



記念メダル



表彰状